

AlgoX

AI研修・助成金活用ガイドブック



AI研修・助成金活用ガイドブックで学べること

人材不足などを背景に、現在政府は企業のDX・リスクリングの促進のため、総額1兆円とも言われる大規模予算での人材教育向けの助成金を給付しています。本資料では、AI研修で使える助成金についてわかりやすくご紹介します

本資料で学べること

- AI研修で使える3つの助成金の概要/要件と助成額
 - 人材開発支援助成金 事業展開等リスクリング支援コース
 - 人材開発支援助成金 人材育成支援コース
 - 東京しごと財団 DXリスクリング助成金
- 各助成金の比較と選び方
- 各助成金の申請の流れ
- 助成金活用による実負担額シミュレーション
- 助成金が不支給となるよくある5つの失敗

AI研修で使える3つの助成金

AI研修で使える助成金には主に以下の3つの種類があります。それぞれ要件や助成金額が異なるため、自社の目的や研修内容に応じて、最適な助成金プランを選択することが重要です

	人材開発支援助成金 事業展開等リスキリング 支援コース	人材開発支援助成金 人材育成支援コース	東京しごと財団 DXリスキリング助成金
概要	新規事業立上げやDX推進のための 技能習得に係る訓練費用の一部を 助成する制度	従業員に対して実施した専門的な 知識や技能を習得させるための 訓練費用の一部を助成する制度	従業員のスキルを高め、DXを推進 するための研修費用の一部を 助成する制度
対象者	● 事業主: 雇用保険適用事業所の事業主 ● 労働者: 雇用保険被保険者	● 事業主: 雇用保険適用事業所の事業主 ● 労働者: 雇用保険被保険者	● 都内に本社又は主たる事業所のある 中小企業
対象訓練 の要件	● 訓練時間数が10時間以上 ● OFF-JT(企業の事業活動と区別して 行われる訓練)であること ● ①事業展開にあたり必要となる専門 知識を習得させる訓練、又は②DX化 に必要となる専門知識・技能を習得さ せる訓練	● 人材育成訓練: 10時間以上の OFF-JTによる訓練 ● 認定実習併用職業訓練: 新卒者等の ためのOJTとOFF-JTを組み合わせ た訓練 等	● レディメイド研修: 教育機関等が計画 した既存の公開研修 ● オーダーメイド研修: 受講企業の従業 員向けにオーダーメイドで策定された 研修

人材開発支援助成金 事業展開等リスクリング支援コースのご紹介

人材開発支援助成金の事業展開等リスクリング支援コースは、厚生労働省がDX等に関する社員のスキルアップ向上支援を目的として提供する助成金制度です

ご利用可能な助成金制度

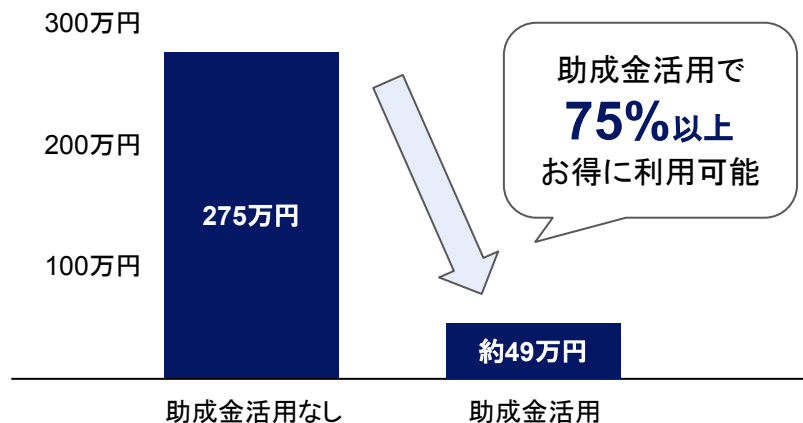
	大企業	中小企業
経費助成	経費の 60%を助成	経費の 75%の助成



	大企業	中小企業
賃金助成 (1人1時間)	500円	1,000円

※助成金活用には諸条件がございますので事前にご相談ください
※詳細は[こちら](#)をご参照ください

中小企業様の助成金活用例



※中小企業様が20名で10時間のオンライン研修を利用され、事業展開リスクリング支援コースを活用される場合の例です

人材開発支援助成金 人材育成支援コースのご紹介

人材開発支援助成金の人材育成支援コースは、厚生労働省が企業による社員の職務に関連したスキルアップ向上支援を目的として提供する助成金制度です

ご利用可能な助成金制度(正規雇用労働者の場合)

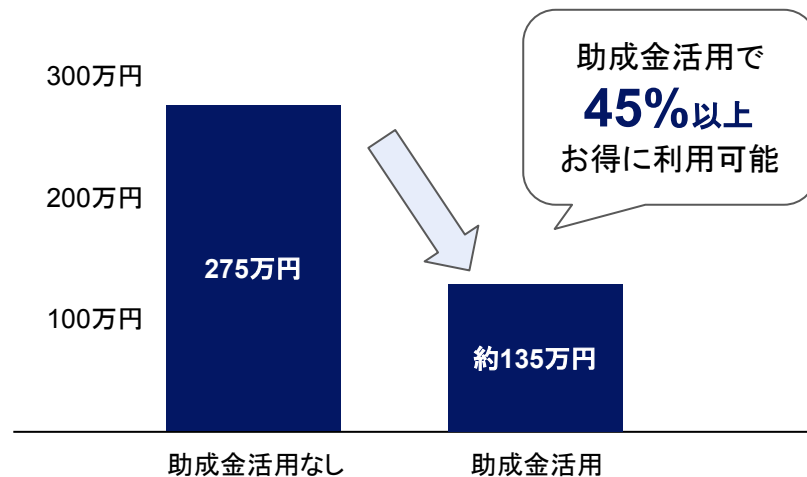
	大企業	中小企業
経費助成	経費の 30%を助成	経費の 45%の助成



	大企業	中小企業
賃金助成 (1人1時間)	400円	800円

※助成金活用には諸条件がございますので事前にご相談ください
※詳細は[こちら](#)をご参照ください

中小企業様の助成金活用例



※中小企業様が20名で10時間のオンライン研修を利用され、
人材育成支援コースを活用される場合の例です

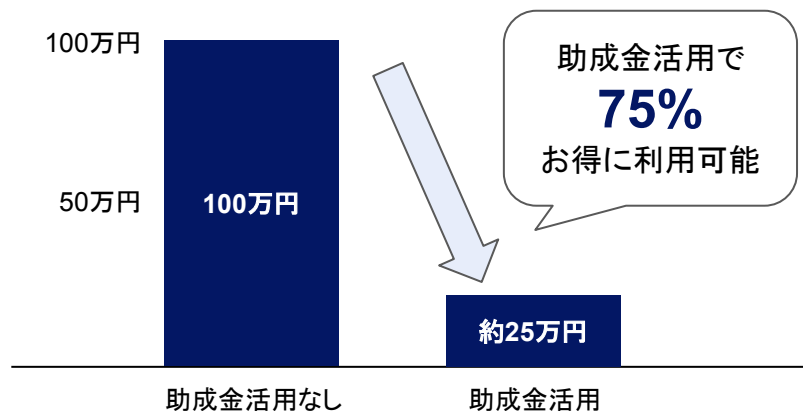
東京しごと財団 DXリスクリング助成金のご紹介

東京しごと財団のDXリスクリング助成金は、東京都内の中小企業に対し、社内のDX化に向けたスキルアップの研修に必要な費用の一部を助成する制度です

ご利用可能な助成金制度

助成額	経費の4分の3 (上限75,000円/受講者1人1研修)
助成限度額	1事業年度・1企業あたり100万円

中小企業様の助成金活用例



※助成金活用には諸条件がございますので事前にご相談ください
※詳細は[こちら](#)をご参照ください

※中小企業様が20名で10時間のオンライン研修を利用され、DXリスクリング助成金を活用される場合の例です

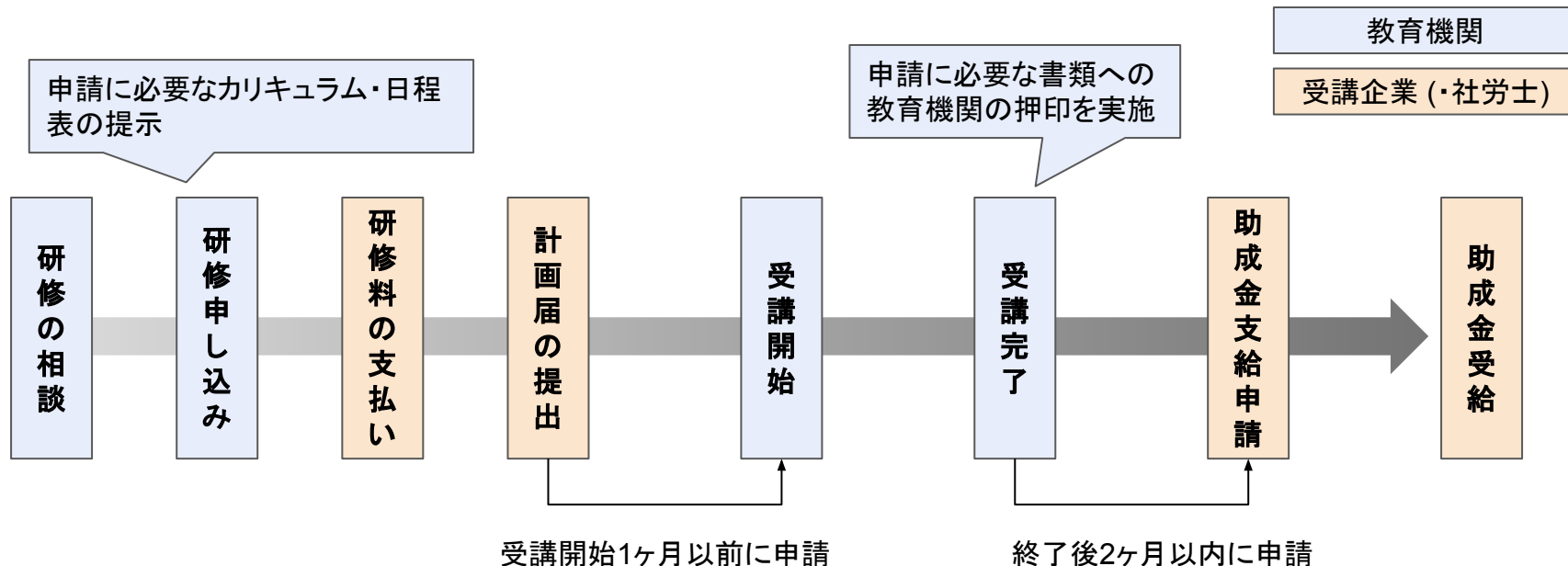
3つの助成金の比較表と選び方

3つの助成金のうち、どれを活用するかは、研修形態やカリキュラム内容によって異なります。以下では、3つの助成金のメリット・デメリットを比較し、それぞれどのような場面で活用するのが適切なのかを整理しました

	人材開発支援助成金 事業展開等 リスクリング支援コース	人材開発支援助成金 人材育成支 援コース	東京しごと財団 DXリスクリング助 成金
メリット	● 全国の中小企業・大企業が対象となる ● 助成率・助成限度額が最も大きく、大きな投資対効果が見込まれる	● 全国の中小企業・大企業が対象となる ● 幅広い内容の研修が助成の対象となる ● OFF-JTとOJTいずれも対象となる	● カスタマイズされた研修も助成金の対象となる ● 必要な書類の数が比較的少なく、手続きの負担が小さい ● 3時間以上の短い研修でも対象となる
デメリット	● 最低でも10時間以上は受講しなければならない ● カスタマイズされた研修は助成金の対象とならない ● 申請要件が厳格で、すべて満たす難易度が比較的高い	● 最低でも10時間以上は受講しなければならない ● カスタマイズされた研修は助成金の対象とならない ● 助成額は他の助成金制度と比べて低い	● 年間の助成額の上限が100万円までに制限されている ● 原則として東京都内の中小企業しか対象とならない
こんな人におすすめ	● できるだけ多くの助成金支給を受けたい方	● OJTでの研修の実施を検討している方	● 自社向けにカスタマイズされた研修を受講したい方

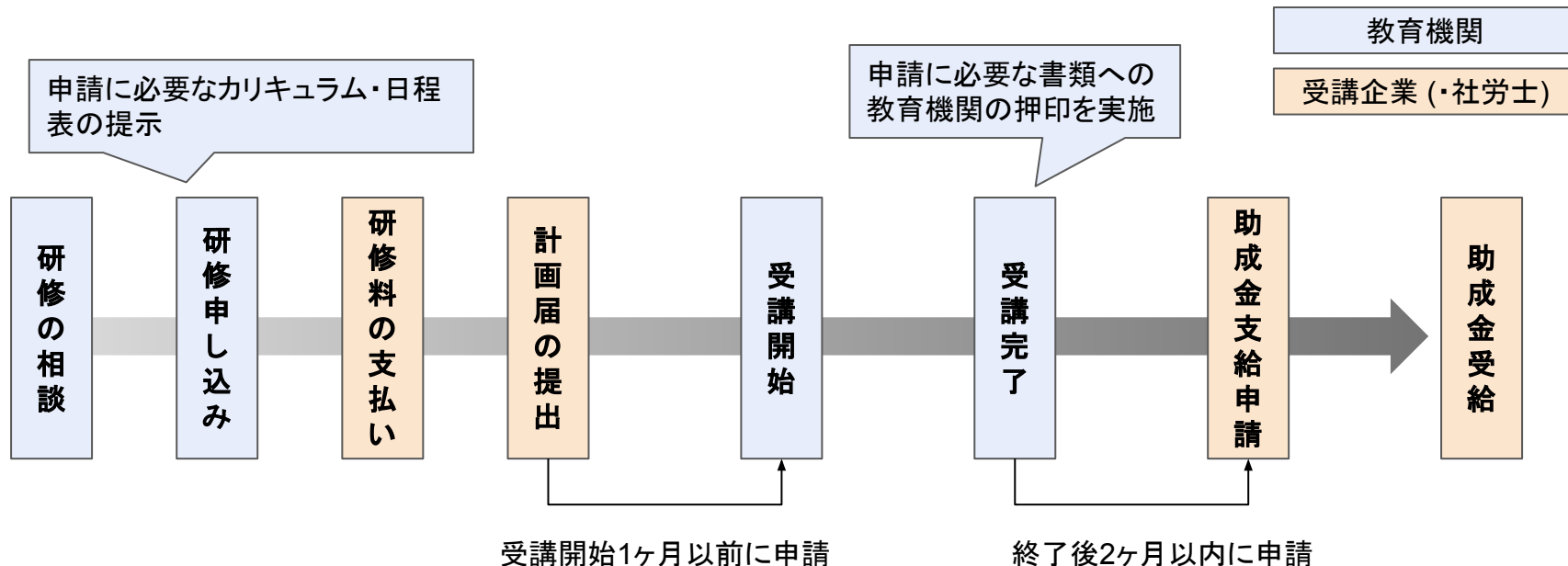
助成金制度活用の流れ ～人材開発支援助成金 事業展開等リスティング支援コースの例～

人材開発支援助成金の事業展開等リスティング支援コースを活用する場合の申請の流れは以下の通りです。期限を守り、適切に申請書類の作成・提出を進める必要があります



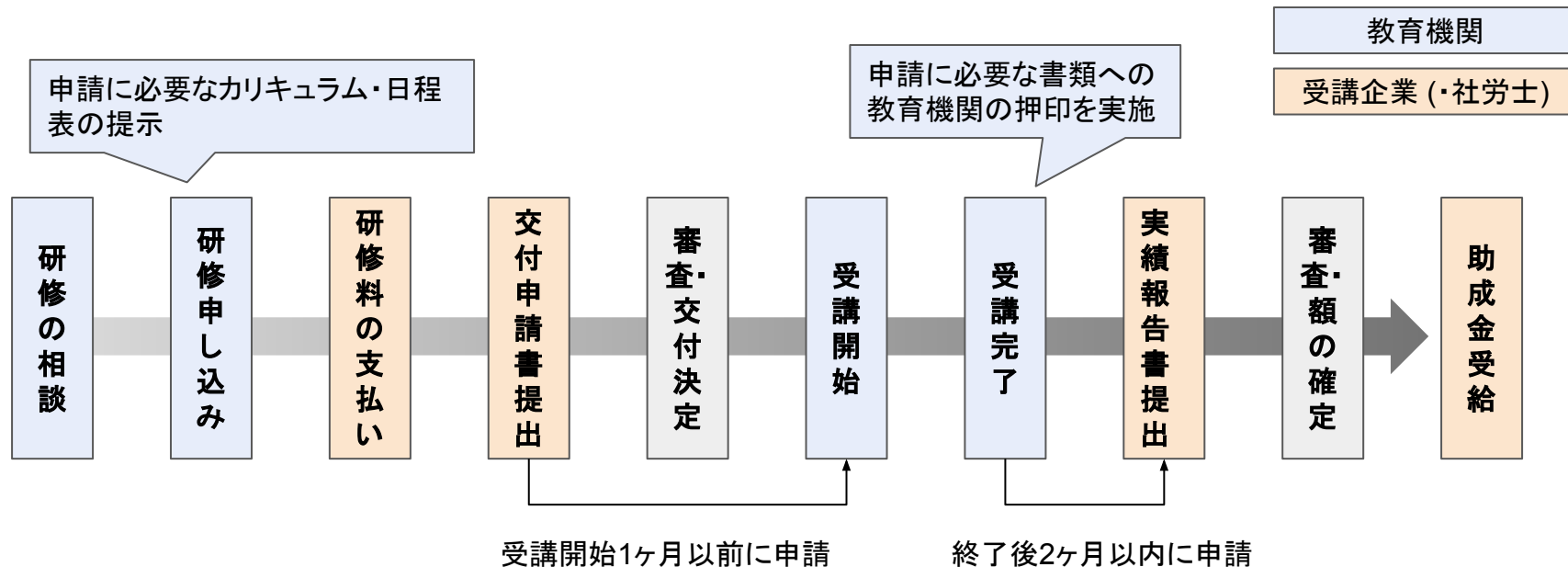
助成金制度活用の流れ ～人材開発支援助成金 人材育成支援コースの例～

人材開発支援助成金の人材育成支援コースを活用する場合の申請の流れは以下の通りです。期限を守り、適切に申請書類の作成・提出を進める必要があります



助成金制度活用の流れ ～東京しごと財団 DXリスキリング助成金の例～

東京しごと財団のDXリスキリング助成金を活用する場合の申請の流れは以下の通りです。期限を守り、適切に申請書類の作成・提出を進める必要があります



助成金申請でよくある5つのミス ～確実に支給を受けるために～

AI研修の助成金は、しっかりと要件を守って申請すれば、基本的には支給されるものですが、以下のような失敗を犯すと、不支給となるおそれがあるので注意が必要です

失敗例

詳細

提出書類に誤った情報を記載してしまった

提出書類の内容に誤りや虚偽があった場合、書類が正式に受理されず、不支給となるおそれがあります。特に、研修を実施した日時や場所、カリキュラムの内容、受講者の名前などは、助成金の支給可否や金額等にも影響するため慎重に記載しましょう

書類の提出期限を徒過してしまった

助成金の支給を受けるための申請書類には提出期限が定められています。この期限を過ぎてしまうと、助成金が不支給となる可能性があるため、しっかりと期限を把握し、遵守することが重要です

助成金の支給要件を満たしていなかった

助成金には厳格な支給要件があります。要件を一つでも満たしていないと、助成金は不支給となるため、事前にすべての要件を確認し、自社が助成金対象企業に該当するか、自社が受けようとする研修が助成金の対象となるかをしっかりと確認しましょう

活用目的や実施計画に不備があった

各助成金には支給目的が定められており、その目的に合致しない場合には助成金は支給されません。事前の実施計画届において、助成金の活用目的を曖昧に記載してしまうと、活用目的が不明確であるとして、助成金の支給対象とならない可能性があります

助成金のルールが変更されたのに気づかず、新しいルールに対応していなかった

助成金の支給要件や手続きに関するルールは、定期的に見直され、更新されます。ルール変更気づかず、古いルールに則って手続きを進めると、要件を満たしていないとして不支給となる可能性があります。最新のルールを逐一確認することが重要です

参考資料

本資料に記載した内容以外にも、助成金申請にあたっては、詳細な要件や必要書類を具備する必要があります。実際に助成金を申請する際には、各助成金を支給している機関の公式HP等を確認することが重要です。

助成金の種類	参考資料
人材開発支援助成金 人材育成支援コース	詳細版パンフレット
	支給要領
	申請書式
人材開発支援助成金 事業展開等リスクリング支援コース	詳細版パンフレット
	支給要領
	申請書式
東京しごと財団 DXリスクリング助成金	募集要項
	交付要綱
	申請書式

※各資料は2025年4月時点のものです。助成金に関するルールや要件は定期的に改訂されますので、必ず最新のものを確認するようにご注意ください